のんびりのほほーんと「駄マラニック」

網本裕之さんが、各地で「駄マラニック」を開催。

5月22日に開催された「松浦シティフル駄マラニック」の様子

Interview　網本 裕之（ひろゆき）さん

「松浦シティフル駄マラニック」が5月22日、松浦鉄道松浦駅を発着点とする42.195㌔のコースで行われました。

「駄マラニック」とは、マラソンとピクニックを合わせた「マラニック」という造語に、さらにゆっくりだらだら歩いたり走ったりしようと網本さんが「駄マラニック」と名付けたもので、平成16年から福岡・佐賀・長崎を中心に各地で大会を開いています。

多くの大会運営をすべて1人でこなす網本さんに、開催のきっかけや今後の目標などを聞きました。

CLOSE UP！ この人に

まつうら 輝人 キラリ

Q 「駄マラニック」を開催しようと思ったきっかけは何ですか？

A 写真を撮ることと走ることが好きで、いろんな大会に出場し、走りながら写真を撮っていました。

しかし、大会参加には遠征距離、遠征料金、参加料がネックになっていました。それなら自分で大会を作って走ってみようと思ったのがきっかけです。

Q 年間多くのプライベートマラニック大会を開催されていらっしゃるので大変だと思いますが、何が網本さんを動かすのですか？

A 大変ではなく楽しいばかりです。全国各地から参加いただいている皆さんの笑顔が私の原動力となっています。

Q 今後、松浦での開催予定はありますか？

A 9月10日から11日の2日間、「松浦 島めぐり山めぐり100㎞駄マラandウォーク」を計画しています。鷹島船唐津港から御厨港までのコースで、風光明媚な松浦の海と山を自分の足でめぐる旅です。

Q 今後の夢や目標を教えてください。

A 楽しく企画しながら、これからも続けていきたいですね。皆さんが楽しく走ったり歩いたりしていただければ、それでうれしいです。

◎ PROFILE

網本 裕之 さん

（御厨・札場、48）

団体職員。数多くのプライベートマラニック大会を主催。

駄マラニック天国ホームページ

http://damaranic.com

Farewell Message　―さようならのメッセージ―

Hello! ALT
こんにちは！外国語指導助手です

キーラ・ケレハー
Ciara Kelleher

アイルランド出身

７月になり、悲しいことに松浦での私の時間は終わりに近づいています。約１年間、私は松浦で生活し、英語を教えてきました。私にとってこの１年は、まさに私の人生において、やりがいのあった年の一つだと言えます。

振り返ってみると、日本に来ることは私にとって、本当に困難でした。誰一人知る人がいない外国に来ること、その国の言葉が話せなかったこと、文化や習慣もほとんど知らなかったこと。しかし、松浦の人たちはとても温かく、歓迎してくれました。そしてしばらくすると、私は、松浦を「home（ホーム：我が家、ふるさと）」と呼ぶようになりました。

松浦ではたくさん新しい経験をし、たくさんの素晴らしい思い出ができました。お盆、国際親善協会の皆さんとのクッキング講座、昨年マッカイ市を訪れた使節団の皆さんへの英語の指導、１日インターナショナルスクール、上志佐保育所でのもちつき、調川保育所での「はらぺこあおむし」の読み聞かせ、学校での運動会や文化祭、そしてもちろん、調川中学校、調川小学校、御厨中学校、鷹島中学校で先生方や生徒たちと過ごした素晴らしい時間を私は決して忘れることはないでしょう。

このように美しくて魅力的な国に住んで、働き、旅行をするという機会が与えられたことにとても感謝しています。興味深く豊かな文化を経験し、日本語を学び、多くの明るくて親切な人々と出会うことができました。松浦での生活がなくなると、きっと寂しく思うでしょう。特に友達や生徒たちと会えなくなることはとても寂しいです。松浦の皆さん、親切にしてくれてありがとうございました。たくさんのすてきな思い出をありがとうございました。

図書館のおすすめ本

市立図書館
☎ 0956－72－4677

松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索

『おかしな本棚』
クラフト・エヴィング商會／著　朝日新聞出版

本そのものでなく本棚が作り出す世界に注目した本。著者はすてきな本を世に生み出し続ける装丁家であり作家である２人の制作ユニット。”森の奥の本棚”、”うるわしい本棚” などテーマごとの本棚の写真は眺めるだけで心弾みます。添えられたエッセイに押されるように本を手に取りたくなる本棚の本。

『これは本』
レイン・スミス／著　ＢＬ出版

パソコンが得意なロバくんと本が大好きなサルくん。ロバくんはサルくんに本は何ができるのか質問をしますが…。アナログでもデジタルでも本が読める時代になりました。ブログやツイッターも良いけれど、本の魅力も捨てられない。そんな気持ちにさせてくれる１冊です。

◆◆◆あかちゃん･子どものお気に入り◆◆◆

10 回目の今回は、図書館からあかちゃんへおすすめの本の紹介です。※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館も大歓迎です！

『おつきさまこんばんは』
林明子／著　福音館書店

『よくきたね』
松野正子／著　福音館書店

『おひさまあはは』
前川かずお／著　こぐま社

『まり』
谷川俊太郎／著　クレヨンハウス

まだ意味も分らないし、字も読めないから…。絵本と赤ちゃんというとそんな声を耳にします。

赤ちゃんと絵本を読むことはスキンシップの手段。図書館では、赤ちゃんの周囲にいる人がその愛情を伝えるための道具の一つとして絵本を勧めています。絵をじっと見つめたり、読んでいる人を見つめてその声に耳を澄ませたりと、赤ちゃんは絵本を楽しみます。周りの人と一緒にその楽しいひとときを過ごすことは安心と喜びを与えます。字を覚えるためや勉強のためではなく、あなたの声や温もりを伝えるために赤ちゃんと一緒に絵本を読んでみませんか？